A Study of Japanese Translations of Writing and Reading Errors in Winnie-the-Pooh

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 夏目, 康子 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/7217

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

大妻女子大学紀要―文系―　No. 54，令和 4（2022）年 3 月

Winnie-the-Pooh における読み書き間違いの翻訳の考察

夏　目　康　子

【キーワード】『クマのプーさん』，読み書き間違い，ディスレクシア，発達段階，翻訳

1. *Winnie-the-Pooh* における発達障害

イギリスの劇作家であり詩人である A. A. Milne（1882–1956）が自分の息子 Christopher Robin Milne（1920–1996）のぬいぐるみを登場させて描いた *Winnie-the-Pooh*（1926）には，個性的な登場人物が多く，西洋哲学や東洋哲学など様々な観点からの分析がある。そのなかの一つに，カナダのハリファックスの小児発達クリニックのグループが，精神障害の診断と統計マニュアルをもとに，登場人物を発達障害専門医たちの視点から診断した“Pathology in the Hundred Acre Wood: a neurodevelopmental perspective on A. A. Milne”がある。

いささか誇張が感じられるものだが，この発達障害の専門家たちは，*Winnie-the-Pooh* は，DMS-IV（アメリカ精神医学会発行の「精神障害の診断と統計マニュアル」）の診断基準を満たす重大な問題を持つ動物たちの物語だと述べる。彼らの診断によると，主人公の Pooh は，ADHD（注意欠陥多動性障害）であり，かつ，OCD，すなわち，食べ物に関する強迫性障害が認められる。Pooh の友人 Piglet は 全般性不安障害，ロバの Eeyore はうつ病由来か心理的トラウマが原因の気分変調症であり，そして森の中では知恵者として知られる Owl は，頭は良いが，読字障害（ディスレクシア : dyslexia）であるという。ディスレクシアは読み書きの LD，識字障害ともいう。いつも飛び跳ねている Tigger には衝動性が認められる。さらに，挿絵をもとに判断すると Christopher Robin 少年は将来，性同一障害になる可能性があるなどという主張は，ほとんどジョークのようにも見える。

この論文の翻訳者であり，注釈者でもある精神科医手塚俊文によると，この論文が掲載された *Canadian Medical Association Journal* はカナダの医療関係者の間では最も広く読まれているものの一つであるが，毎年 12 月号はホリデイ・シーズン特集を組み，純粋に科学的な論文だけでなく，このように半分ジョークのような論文の投稿も受け付けているという（146）。登場人物の行動にたいする精神医学の視点からの分析は，あくまでも可能性を述べたとしても誇張が感じられる主張だが，本稿ではその診断の可否というよりも，そのような診断を呼び寄せた原文の記述，及び，その部分の日本語版翻訳作品での表現の仕方について検討する。特に，小児発達クリニックのグループによってディスレクシアと診断された Owl や，また Owl と同様に多くの綴り字間違いが認められる Christopher Robin が書いたものについて検討し，このような綴り字間違いが，作者ミルンの息子 Christopher Robin Milne の成長段階と重なることを確認する。

2. ディスレクシアとは何か

1）ディスレクシアについて

ディスレクシアとは，知能では問題がないものの，読み書きに困難を覚える障害を指す。医学文献で最も早く取り上げられたのは，1896 年の *The British Medical Journal* である。本誌で，知力が標準なのに読みに困難を覚える 14 歳少年の症例が取り上げられた。1968 年には，世界神経学連盟の国際会議で「知力が十分にあり，社会文化的な機会も与えられていながら従来の教育では読みの学習に困難が生じる障害。認知障害が基盤となり，多くの場合，体質的要因による」と定義づけられた。イギリスのマーガレット・J・スノウリングは，この定義について，曖昧ではないかと疑義を呈している（34）。1995 年に，テンネゼンは「特異な認知障害が音韻処理に影響を与え，読み書きの獲得を制限しているような状態」と述べている。これに対して，スノウリングは，限定して定義する必要はなく，ディスレクシアとは，生涯持続する兆候を持ち，話し言葉の音韻的特徴を脳が符号化する過程に影響を与えるような言語発達障害の特異的形態であり，早い段階で見つけて対応すると良いと付け加えている（263-65）。

海外では，子ども時代にディスレクシアと診断されたことを大人になってから公表したり，あるいは，大人になってからも困難を抱えていることを公表する人が，特に，俳優などに多い[(1)]。日本でのディスレクシアの例を挙げると，1971 年生まれの落語家の柳家花録が，自分の識字障害と ADHD（注意欠陥・多動性障害）のケースについて述べている[(2)]。彼は，小学校時代，教科書を音読することに困難を覚えたが，図工，美術，レゴは得意だった。落語を覚えるのは師匠からの口伝なので，困ることはなかった。自分ではこの症状を障害とは知らずに過ごしていたが，2014 年に指摘を受け，これが障害であることを知り，2017 年に自ら本で公表した。自分が学習障害・発達障害であることがわかって結果的によかったと述べている。

2）英語と日本語におけるディスレクシアの特徴

英語は，文字（文字素）と音（音素）の関係が一貫していないため，ディスレクシアである人は，他言語におけるよりも多い傾向にある。イタリア語やドイツ語は文字と発音の関係の一貫性が高く，法則が明快なので，英語圏に比べ，読み書きの困難度が軽い。症例が英語圏で多いために，ディスレクシアについては，イギリスで最も研究が進んでいるとスノウリングは述べる（15）。また，英語史の観点からも，英語の成立においてギリシア語，ラテン語，フランス語，ドイツ語，北欧語など様々な言語の影響を受けた語彙が多いため，スペリングと発音の関係に規則性が見出しにくく，変則的なものが多いことも英語の読み書きが他言語よりも困難になりがちな一因である。英語は不規則語が多く，日本語より細かな音声を使い，読みが難しい言語であるため，英語圏では，子どもの 10 ～ 20% にディスレクシアが見られるという。そのために，早くから研究が進み，指導方法が何種類もある（加藤 4）。具体的なディスレクシアの割合だが，英国 3 ～ 10%，米国 5% ～ 17,5%，ドイツ 5%，イタリア 1% と報告されており，英語圏で圧倒的に高い（加藤 32-33）。*Winnie-the-Pooh* に登場する Christopher Robin のように，綴りを学び始めた英語圏の子どもにとって，英語の不規則性は高いハードルとなる。

読み書きにおいて，日本語は英語よりは学習しやすい傾向がある。英語は記号と発音の対応関係が音素単位だが，日本語の場合，「かな」では音節単位であり，音声言語の単位としては音節の方が捉えやすく，文字記号の音声化（デコーディング）を学ぶのが容易であり，かつ，「漢字」に

よって視覚象徴と発音との対応関係を学習者は学ぶことができる（スノウリング　15）。ディスレクシアと診断されたわけではないが，日本で読み書きに困難を伴う子どもの出現率は，国立特別支援教育総合研究所の調査（1996 年）では，小学校 2 年生から 6 年生まで 5%以下であり，また，別な調査では，ひらがな 1%，カタカナ 2 ～3%，漢字 5 ～6% ということで，文字により異なるが，いずれの場合も英語圏よりも低い（加藤　32）。

3. ディスレクシアではないという見解

1）Pooh は超・心理学者

一方，クマの Pooh は，注意欠陥多動性障害を持つどころか，心理学者，哲学者，セラピストであると述べる批評家たちもいる。John T. Williams は，*Pooh and Philosophers*（1995）（小田島雄志・小田島則子訳『クマのプーさんの哲学』），*Pooh and the Ancient Mysteries*（1997）（小田島則子訳『クマのプーさんの魔法の知恵』），*Pooh and the Psychologists*（2000）（小田島則子訳『クマのプーさん　心のなぞなぞ』）などを著し，Pooh と哲学について考察している。ウィリアムズによると，Pooh 本人は西洋哲学の最も偉大なる代表者であり，Eeyore にはあきらかにストア学派の伝統があらわれており，Piglet は道徳哲学への示唆に富み，Owl は学術的哲学というものへの生きた風刺となっていると述べる（ウィリアムズ 1995: 11）。

ウィリアムズは *Pooh and the Psychologists*（2000）で，Pooh は偉大なる頭脳を持ち，超・心理学者，かつ優秀なセラピストとして，臆病であり依存心過多な Piglet の成長を助け，勇敢にすると述べている。また，権威主義的であり，劣等感もあり，他者排除的傾向のある Rabbit に他者を受け入れることを可能にし，また，Eeyore のうつ病の治癒を助け，行動的にするなど，Pooh の他者への働きかけを称賛する。いささか過剰評価の感は否めないが，Pooh という存在がこの作品の中で大きな働きをし，他の登場人物の性格や行動に変化が生まれていることは事実である。

2）*Winnie-the-Pooh* における綴り字間違いは発達段階のものという見解

次に，子どもの言語の発達段階の視点から綴り字間違いを分析する者もいる。すなわち，障害というよりも発達段階での書き間違い “invented spelling” という考え方である。アメリカ，テネシー州の成人教育教師，幼児教育相談員である Pat Timberlake は “invented spelling”（C. Chomsky1971），すなわち，子どもの developmental stage of writing という概念で説明する。子どもはまず子音とそれを表す文字を認識するので，初めの段階では，綴りは聞こえた音と知っている文字で表記する。この段階では自分が聞いた音（必ずしも正しく音を聞いているわけではない）と，自分が知っている文字（必ずしもすべての文字を知ってわけではない）で表記する。いわゆる，C. Chomsky の 言う “invented spelling” である。この段階では，しばしば母音が省かれる。しかし，学習を経て，次第に母音も綴りに入れるようになる。それゆえ，教師は，子どもの発達段階でのスペリングについて理解すべきであると述べ，*Winnie-the-Pooh* と続編の *The House at Pooh Corner*（1928）の Christopher Robin の綴りの変化を例として挙げている。Timberlake は，子どもがいくつかの発達段階を経ていくことへの理解を深めるため，教員同士，指導の工夫について話すべきなどの提言もおこなっている（Timberlake1995: 66-67）。

以上のように，様々な見方があるが，この作品における綴り字間違いについての見解は，最後に紹介した発達段階のものではないかというのが最も妥当と考えられる。実際，続編の *The House at Pooh Corner*（1928）では，Christopher Robin の書く綴りは改善され，最後に正しい綴りを書

くことができるようになり，成長の跡が見てとれる。この変化については，次章で検証する。以上のように，*Winnie-the-Pooh* における変則的な綴り字は，ディスレクシアというよりも発達段階のものであると理解できる。それでは，そのような間違った綴りを日本語に直すとき，どのようなことがおこるのか，そして，どのように訳したら良いのか，また，なぜこのような綴りが作品に導入されたのかを次章で検討する。

4. *Winnie-the-Pooh* における変則的綴り

カナダのハリファックスの小児発達クリニックのグループが，ディスレクシアなのではないかと考えた本文中の綴りは，具体的にどんな綴りなのだろうか。

1）第 IV 章の実例

次が，*Winnie-the-Pooh* 第 IV 章の実例である。Christopher Robin によって Owl の家のドアの看板に書かれたのが次の表記である。

PLEZ RING IF AN RNSER IS REQIRD. (48)
(= Please ring if an answer is required)
PLEZ CNOKE IF AN RNSR IS NOT REQID. (48)
(= Please knock if an answer is not required)

それぞれの綴りには，前章で紹介したように，子音が目立ち，母音が落ちる傾向がある。当然ながら，スペリングは正確でない。翻訳者は，これを日本語にどう訳しているのだろうか。石井桃子（1940, 1985）の訳，阿川佐和子（2014）の訳，森絵都（2017）の訳を検討する。

① 「ごよのあるしとひぱてください
こよないしとたたてください」（石井訳　76）

② 「ごよのひと　よびりんお　わがいします。
ごよないひと　たたくだちい。」（阿川訳　59-60）

③ 「ごようの　ひと　ならせ　くださ
ごよ　ないの　しと　たたき　くだせ」（森訳　65-66）

三つの訳の特徴は，全部ひらがなであること（石井，阿川，森），句読点が無いこと（石井，森），音節で区切ることが多いこと（阿川，森），濁点を落とすこと（石井一部），撥音がないこと（三訳とも）である。また，「を」の仮名遣いの間違いもある（阿川）。「ひと」を「しと」と表記するものもある（森）。文が完結しておらず，未完である（森）。以上のように，それぞれの訳は，子どもがおかしがちな間違いのような表記となっている。そして，一つの訳文の中でも濁点があったりなかったりというように（石井），間違い方に一貫性がない。しかし，訳語には，本来言いたかったことの意味が読者に伝わるような工夫が垣間見える。

2）第 VI 章の実例

次に，第 VI 章の例を検討する。

HIPY PAPY BTHUTHDTH THUTHDA
　　BTHUTHDY.
Pooh looked on admiringly.
“I'm just saying ‘A Happy Birthday,’ ” said Owl carelessly. （82-83）

これは，Owl が書いたことになっている誕生日祝いのメッセージである。 Happy happy birthday birthday /birthday と言いたかったようだ。この綴りでも母音が落ちる傾向がある。また，何度か同じ単語を書こうとしている。

三つの訳を比較してみよう。

① おたじゃうひ　たじゅやひ　おたんうよひ　おやわい　およわい（石井 125）

② おただんじゃ　んびび　おでめでだい　でろおう　とう（阿川 101）

③ おたしょう　ひ　おだんだん　ためでと　ごさなす　ます（森 112）

どの訳も，ひらがな表記である。音節で区切る傾向がある。しかし，第 IV 章の例よりも，訳を見ただけでは意味がわかりにくい。このあと，「おたんじょうび　おめでとう」と言いたかったと Owl が言うので，読者には何とか理解できる。音の面では，どの訳語にもユーモラスな響きが感じとれる。

3）続編 *The House at Pooh Corner*（1928）における綴り間違い

次に，続編 *The House at Pooh Corner*（1928）における綴り間違いについて検討する。第 V 章で，Christopher Robin がしばらく外出する時，家のドアに次のような言葉を掲げる。①が最初の掲示で，②は数日後の掲示になる。

①
GON OUT
BSCKSON
　BISY
BACKSON
　C. R.　　（78）

②（ a few days later）
GONE OUT
BACK SOON
　C. R.　　（91）

三つの訳を比較しよう。

＜石井訳＞
① がいしつ
すぎかえる
いすがし
すぎかえる
ク・ロ　(130-31)

② がいしつ
すぐかえる
ク・ロ　(152)

＜阿川訳＞
① るすす。
すすもどる。
いそがす。
すすもどる。
ク・ロ　(97-98)

② がいしゅつちゅう
すぐもどる。
ク・ロ　(115)

＜森訳＞
① がいしつちゅ
すぐごもる
いそかし
すぐごもる
C. R.　(119)

② がいしゅつちゅう
すぐもどる
C. R.　(136)

この例では，最初の綴りと，数日後の綴りに変化が表れているのがわかる。①では文法上，スペリング上のミスがあったが，②ではそれが修正され，ミスがない。石井訳の①は，がいしゅつの小さい「ゅ」が落ちている。「いそがしい」が「いすがし」になり，「すぐ」が「すぎ」になるなど，子どもの間違いにありそうな綴りである。しかし②の原文は正しいスペリングになっているので，②の翻訳では「がいしつ」ではない方が良かったのではないだろうか。

阿川訳は，「るすす」「すす」などの音が面白く，ユーモラスな響きがある。②の訳は日本語上で

も間違いがなくなっている。森訳は，①の訳は「がいしゅつちゅ」など途中で終わっていたり，「もどる」が「ごもる」など音がひっくり返り，違う音に変わってしまうなど，子どもにありそうな間違いかたである。②の訳は日本語上でも問題がない。森訳では句読点が無く，シンプルである。三つの訳を見ると，いずれも①と②のあいだに差をつけ，成長のあとを読み取ることができる。②は原文では文法上問題がないので，阿川訳，森訳の訳し方が良いのでないか。

4）言い間違いの訳

この作品には，登場人物の書き間違いだけでなく，言い間違えの表現もある。*Winnie-the-Pooh* の Chap. V では，Christopher Robin や Pooh たちが elephant という言葉をうまく言うことができず，Heffalump と言うが，それを石井は「ゾゾ」，阿川は「ゾオオ」，森は「アブリガドー」と訳している。「アブリガドー」とは，「アフリカゾウ」の言い間違えを表そうとしたようである。

Chap. VIII では Pooh が Expedition を Expotition と言い，石井は「てんけん」，阿川は「タンタン」，森は「たんてん」と訳している。Chap. IX では Pooh は Message を Missage　と言い，石井は「てまみ」，阿川は「おてまみ」，森は「メッシージ」と訳している。子どもの言語世界において言葉の言い間違えやスペリングミスというのはよく見られる現象だが，それを作品の中にユーモアも交えて登場させたことが，この作品が子ども読者や，子どもをよく知る大人を惹きつける要因の一つかもしれない（夏目 2021,3: 159）。

elephant は，『ジーニアス英語大辞典』によると，語源はギリシア語の elephntos（牙を持つ動物）が原義であり，かつ 3 音節の言葉なので，幼い子どもに覚えづらく，言いづらい言葉である。Expedition は，ex-（…から離れて）+pedi（足）+-tion であり，「足枷から足を外して自由の身にすること」という語義で，4 音節語であり，やはり幼い子どもには難しい。message は，語源が中世ラテン語 missaticum（送られてきたもの）であり，2 音節語である。幼い子どもにとっては英語本来語でない語や，多音節語は難しい。そのことを作者ミルンは，造語することにより表している。翻訳者には，その誤った語が本来意味しようとしていたものを読者に伝えるという仕事が課される。時にそれがうまく機能しないこともあるため，読者は，文脈や挿絵から判断しなければならない場合もある。例えば，Heffalump の場合は，Ernest H. Shepard によるゾウの挿絵が読者の理解を助けている。

5. Christopher Robin の成長

作者 A. A. Milne が，このような綴り字間違いや言い間違えをあえて作品に活用したのは，この作品が書かれた頃の息子 Christopher Robin の言語上の発達段階を反映しているからではないだろうか。第一作 *Winnie-the-Pooh* の出版年は 1926 年であり，書かれたのがその前だとすると，息子の Christopher Robin は 5 歳か 6 歳前後だったと推測できる。Christopher Robin の自伝『クマのプーさんと魔法の森』には，Christopher Robin は 9 歳のときにナニーが去ったあと，母親よりも父親ミルンと親密な関係を結んだとある。「ナニーを熱愛したように，父を熱愛し，父は，ほとんど私の一部になってしまったほどであった」(235) と述べているが，おそらく，ナニーがいた間も，母親よりも父親の方が近い存在だったのだろう。

作者の A. A. Milne 自身は，1 歳上の兄ケンと非常に仲がよく，兄弟の父親は寄宿舎学校を経営しており，幼い頃からミルンたちの教育環境は恵まれたものだった。また兄ケンは弟アランの方が勉強がよくできても嫉妬するようなことはなく，終生二人は良い関係だった。それに対して，

Christopher Robin は一人っ子だったため，親しむ兄弟もなく，日々，ナニーか父親ミルンに密着していた。父は，息子の綴りの習得状況もよくわかっていたことだろう。一作目の綴りは始終誤っていたが，続編第 V 章ではその息子の少しおかしな間違い綴りをユーモラスに作品に登場させ，最後は正しい綴りに近づいたことを示している。初期の綴り字間違いと，その後の正しい綴りへの移行は，父が作品に忍び込ませた Christopher Robin の成長の証である。その成長の証を示したあと，Christopher Robin は Hundred Acre の森にもプーたちにも別れを告げるはずだが，そのことは明示はされない。*The House at Pooh Corner* 最後の第 X 章の Christopher Robin と Pooh との最後の会話は，ユーモラスだが，少しペイソスも混じっている。

> "Pooh, promise you won't forget about me, ever. Not even when I'm a hundred."
> Pooh thought for a little.
> "How old shall I be then?"
> "Ninety-nine."
> Pooh nodded.
> "I promise," he said.
> ＊　＊　＊
> ……in that enchanted place on the top of the Forest, a little boy and his Bear will always be playing.　(179-80)

Pooh が「忘れないよ」と少年に約束したあと，「この魔法がかかった場所では，少年とその子のクマが，いつも遊んでいることでしょう」という言葉で作品は幕を閉じる。実際の Christopher Robin は森を離れ，寄宿舎学校に入るのだが，この森では少年はクマと別れることはなく，この魔法の場所で永遠に遊んでいるのだ。

このように，成長の一段階を記すものとしての綴り字間違いの表記だったが，Pooh や Christopher Robin や Owl の言い間違い・書き間違いは，子ども時代の一面を生き生きとユーモラスに表すエピソードの一要素となり，作品を彩っている。子どもを身近に知り，観察し，共に遊んだミルンだからこそ可能であったことだろう。翻訳の現場では，このような Christopher Robin の子ども時代を象徴する綴り字間違い・言い間違いをどのように日本語に訳したら良いかが問われるが，この場合，pun（言葉あそび）の訳とは異なる，別の工夫が必要である。解決策としては，日本語での言語発達段階での間違いのように訳し，かつ，何を言おうとしていたかが推測できる訳が望まれる。石井，阿川，森たちはそれぞれ日本の子どもの言い間違え，書き間違えのような訳を試みている。訳者としては，自由な訳語で良いわけだが，子どもの成長の一段階としての子どもの自由な発想やのびやかさを，ユーモラスな響きや音の面白さで表している。

石井の *Winnie-the-Pooh* 初訳は 1940 年で，石井が 33 歳の年である。ただし，その後何度も改訳を試みている。阿川訳は 2014 年で 61 歳の年である。森訳は 2017 年で 49 歳の年である。石井の初訳と平成の森訳の出版には 77 年の歳月の開きがあるので，言葉遣いにおいて差異があるのも当然である。

石井訳は岩波少年文庫などに収録されていることからも明らかなように，子ども向けである。一方，目黒強によると阿川佐和子の対象読者は「文化人タレント」としての阿川になじみのある人々であるという（196）。阿川訳は大人の女性が主要なターゲットだろう。『カラフル』（1998）などでティーンエイジャーに人気がある森絵都の訳は，現代日本の十代の若者向けの Pooh の世界である。

書き間違いや言い間違いを翻訳する場合，子どもの発達段階ということを考慮に入れつつ，そもそも何を書きたかったのか，言いたかったのかをある程度読者が推測できる訳が望ましいが，それには日本の子どもの実際の姿をよく知ることが大きな力となる。長年にわたって自宅で文庫を子どもたちに開放し，自身で読み聞かせを行った石井桃子は，子どもをよく知っていたはずである。実は，阿川佐和子自身，兄の阿川尚之とともに東京の荻窪にある石井の自宅の一部を開放したかつら文庫（1958 開設）に通ったことがあり，石井に読み聞かせをしてもらった子どもたちの一人であった[(3)]。阿川訳は，実際，石井桃子訳を強く意識し，そこから新たなものを作り出そうと試みた訳である。阿川の『ウィニー・ザ・プー』の「訳者あとがき」では「何度も石井さんの本に向かって『参りました！敵いません！』と頭を下げた」と述べている（204）。

以上のように，原文の綴り字間違い，言い間違えの表現には，意図的に技巧を使った言葉あそびとは異なる，作者ミルンの父としての子に対する細かな観察の目が注がれていたことを認識し，物語世界内でも子どもは成長していくことを知って訳す必要がある[(4)]。無意識のうちに意図せず犯してしまった誤りを含む，成長過程での言語活動の翻訳には難しさが潜む。このような変則的な綴りの翻訳にはいくつもの可能性が潜在するが，その変則的な語の面白みを生かしつつ，日本の読者が本来の意味を推測できるような技量も求められる難しい場であることは確かである。

《注》

（1） 俳優のトム・クルーズは，子ども時代にディスレクシアであったことを公表した。2021/11/30〈http://dyslexiahelp.umich.edu/success-stories/tom-cruise〉オーランド・ブルームは 7 歳の時に失読症という診断を受け，大人になっても脚本を読んだり覚えたりすることに支障があるのだという。2021/11/23〈https://moviewalker.jp/news/article/15052/〉

（2）「柳家花緑　ようやく手に入れた「識字障害」という名の止まり木」『婦人公論 jp.』2019/11/8〈https://fujinkoron.jp/articles/-/960?page=5〉

（3） 昭和 33 年 3 月文庫開設の日，5 歳の阿川尚之は，父阿川弘之に連れられて，かつら文庫に一番乗りだったという（『ユリイカ特集石井桃子』95）。

（4） 例えば，ダニエル・キイス作『アルジャーノンに花束を』の小尾芙佐訳では，主人公の症状の変化により，文体を変えている。症状が改善された時は一般的な文体になるが，症状が元に戻ってしまった最終章は最初の章と同じく，ひらがなが多用され，かつ，仮名遣いに誤りのある文体が続く。

引用作品

Milne, A. A. *Winnie-the-Pooh*（1926, 2005）Methuen, Puffin Books.
_____. *The House at Pooh Corner*（1928, 1992）Methuen, Puffin Books.
_____. *When We Were Young*（1924, 1979）Methuen.
ミルン，A. A. 石井桃子訳（1940, 2000）『クマのプーさん』岩波少年文庫.
_____. 石井桃子訳（1942, 1985）『プー横丁にたった家』岩波少年文庫.
_____. 阿川佐和子訳（2014）『ウィニー・ザ・プー』新潮文庫.
_____. 阿川佐和子訳（2016）『プーの細道にたった家』新潮社.
_____. 森絵都訳（2017）『クマのプー』角川文庫.
_____. 森絵都訳（2017）『プー通りの家』角川文庫.

参考文献

阿川尚之「かつら文庫の思い出」（2007）『ユリイカ　特集石井桃子』青土社.
安達まみ（2002）『くまのプーさん　英国文学の想像力』光文社新書.
石井桃子（2018）『プーと私』河出文庫.
苧坂直行・苧坂満里子・藤原久子（1995）『読み書き障害の克服 ── ディスレクシア入門』協同医書出版社.

小野俊太郎（2020）『「クマのプーさん」の世界』小鳥遊書房.
加藤醇子編著（2016）『ディスレクシア入門 ――「読み書きのLD」の子どもたちを支援する』日本評論社.
講談社編（2018）『くまのプーさん　心にハチミツを　超訳「老子」「荘子」』講談社.
シェイウィッツ，サリー著，藤田あきよ訳（2006）『読み書き障害（ディスレクシア）のすべて』PHP 研究所.
スノウリング，マーガレット・J. 著，加藤醇子・宇野彰監訳（2008）『ディスレクシア ―― 読み書きのLD 親と専門家のためのガイド』東京書籍.
竹内美紀（2014）『石井桃子の翻訳はなぜ子どもをひきつけるのか』ミネルヴァ書房.
夏目康子（2020）「菊池寛・芥川龍之介は『不思議の国のアリス』をどう訳したか ―― 丸山英観訳，柳瀬尚紀訳との比較」*Otsuma Review* 第 53 号，大妻英文学会.
_____.（2021, 3）「石井桃子の『クマのプーさん』の翻訳についての考察 ―― 子どもの言語世界をどう表すか ――」『大妻女子大学紀要 ― 文系 ― No. 53』大妻女子大学 .
_____.（2021, 7）「『不思議の国のアリス』の言葉あそびの翻訳の比較 ―― 明治時代から令和時代まで ――」*Otsuma Review* 第 54 号，大妻英文学会.
野尻英一・高瀬堅吉・松本卓也（2019）『〈自閉症学〉のすすめ ―― オーティズム・スタディーズの時代』ミネルヴァ書房.
目黒強（2019）「阿川佐和子訳『ウィニー・ザ・プー』と教養主義的読書観」『ユリイカ　特集阿川佐和子』青土社.
Chomsky, C.（1971）“Write first, read later” *Childhood Education* 47, 296-99.
Milne, A. A.（1939）*It's Too Late Now*. Curtis Brown. A. A. ミルン，石井桃子訳（2003）『今からでは遅すぎる ミルン自伝』岩波書店 .
Milne, Christopher（1974）*The Enchanted Places*. Eyre Methuen. C. ミルン，石井桃子訳（1977）『クマのプーさんと魔法の森』岩波書店 .
Shea, Sarah E. et al. “Pathology in the Hundred Acre Wood: a neurodevelopmental perspective on A. A. Milne” *Canadian Medical Association Journal*. December 12, 2000. セーラ・E・シェイ他著，手塚俊文訳・解説（2004）「百エーカーの森の病理 ―― A.A. ミルン作品に見る発達障害」『ユリイカ 特集クマのプーさん』青土社.
Shepard, E. H.（1957）*Drawn from Memory*. Curtis Brown. E. H. シェパード，永島憲江訳（2020）『思い出のスケッチブック』国書刊行会.
Thwaite, Ann（1992）*The Brilliant Career of Winnie-the-Pooh*. Curtis Brown. アン・スウェイト，安達まみ訳（2000）『クマのプーさんスクラップ・ブック』筑摩書房.
_____.（2017）*Goodbye Christopher Robin*. Curtis Brown. 山内玲子・田中美保子訳（2018）『グッバイ・クリストファー・ロビン』国書刊行会 .
Timberlake, Pat（1995）“Christopher Robin, Owl, Eeyore, and Nvntd Splling” *Education of Young Children*,vol. 50, No. 3.
Melrose. A. R.（1995）*The Pooh Dictionary*. Methuen.
Williams, John T.（1995）*Pooh and Philosophers*. A. M. Hearth & Co., Ltd. ジョン・T・ウィリアムズ，小田島雄志・小田島則子訳（1996）『クマのプーさんの哲学』河出書房新社.
_____.（1997）*Pooh and the Ancient Mysteries*. A. M. Hearth & Co., Ltd. 小田島則子訳（1998）『クマのプーさんの魔法の知恵』河出書房新社 .
_____.（2000）*Pooh and the Psychologists*. A. M. Hearth & Co., Ltd. 小田島則子訳（2002）『クマのプーさん　心のなぞなぞ』河出書房新社.
Wullschlager, Jackie（1995）*Inventing Wonderland*. Reed International Books. ジャッキー・ヴォルシュレーガー，安達まみ訳（1997）『不思議の国をつくる』河出書房新社.